

事業所名

放課後等デイサービス あんず

支援プログラム(児童発達支援)

作成日

2024年

8月

1日

法人(事業所)理念	杏は、熟することで旨味が生じ、独特の香りが特徴で、その存在も個性的。漢字では、口の上に木が生えており、自ら発する言葉で成長する。個性豊かな子ども達を杏に例え、その成長をサポートしながら、共に学び、実を実のらせる。		
支援方針	個々の特性を理解し、スローステップで各取り組みを促す。やる気の出る声かけを常とし、本人のやりたいを引き出す。既存の教材に捕らわれることなく、本人の希望や嗜好を活かし、共に取り組みながら様々な概念の取得とコミュニケーションへ繋げる。		
営業時間	10時～17時	送迎実施の有無	あり なし
支援内容			
本人支援	健康・生活	あんずに着いたら、靴を脱いで自分の名札をつけ靴箱に入れる→連絡帳の提出→自分の荷物を棚に入れる→検温・トイレ・手洗い、という一連の流れを身につけることで、やるべきことをまず行なう習慣を身につけていく。同時に自分のことは自分でする習慣も身につけていく。排泄について、排泄時間帯を把握するためにもトイレ誘導する。本人の排泄時間であろう時にトイレ誘導しトイレで排泄することを知らえてもらえるようにする。食事について、誤嚥に気をつけつつ楽しく食べてもらえるように工夫していく。	
	運動・感覚	ハードル・ラダー・バランスディスク・マットなど利用して様々な運動をして楽しみながら体を動かし粗大運動をしていく。また、シールを貼ったりぬりえをしたりして微細運動も取り入れ、大小の運動で体のバランスを整えていく。	
	認知・行動	情報を受け取る場合、視覚から取り入れやすいか聴覚から取り入れやすいのか、個別で見極めて個人に適している方法で次の行動を知らせたり気持ちの切り替えを図っていく。視覚から情報を受け取りやすい児童は掲示板に予定を書いておいたり、聴覚から児童はタイマーなど音で知らせたり工夫していく。	
	言語 コミュニケーション	教室に来て行なう50音の口ずさみを行なうことで口の動きを滑らかにし発語する機会をもつ。いろんな絵本を見てもらい興味あるものを見つけ、視覚から文字の情報を取り入れたり読み聞かせをすることで聴覚から情報を取り入れたりすることで言葉に接する機会をつくっていく。音楽も取り入れて楽しみながら徐々に発語する機会をつくっていく。	
	人間関係 社会性	あいさつ、ものごとのルール、感謝や謝罪の言葉など、社会生活に必要なソーシャルスキルの習得を目指す。集団活動や友だちとの関わりの中で発生する人間関係において相手も自分も大切にしたい行動を選択できるように一緒に考えていく。	
家族支援	普段から、連絡帳や送迎時の保護者との会話で、本人のあんずでの様子や家での様子また学校での様子の情報を共有しておく。連絡を密にしてお互いに相談しやすい環境をつくっておく。	移行支援	就学前からの利用者について、小学校に上がってからもスムーズに放課後等デイサービスに移行できるようにしておき安心して児童デイサービスを利用できるようにする。進学先の小学校への情報提供。
地域支援・地域連携	相談支援員と連携している。	職員の質の向上	日頃から各児童について情報交換を行ない適切な対応を皆で考えていく。必要なときには研修を行なう。
主な行事等	月ごとに、その月に合った工作をしたりひと月ごとのカレンダーに絵を描いてもらったり色塗りをしてもらおう。例えば、2月ならカレンダーの上半分に節分の絵を描いてもらったり鬼の塗り絵をもらおう。あるいは7月なら短冊に各自の願い事を書いてもらいそれを教室に飾る。また短冊に書けなくても色を塗ってもらったものを飾ったりする。避難訓練を年2回行なっている。		

事業所名

放課後等デイサービス あんず業平

支援プログラム(放課後等デイサービス)

作成日

2024年

8月

1日

法人(事業所)理念	杏は、熟することで旨味が生じ、独特の香りが特徴で、その存在も個性的。漢字では、口の上に木が生えており、自ら発する言葉で成長する。個性豊かな子ども達を杏に例え、その成長をサポートしながら、共に学び、実を実のらせる。		
支援方針	個々の特性を理解し、スローステップで各取り組みを促す。やる気の出る声かけを常とし、本人のやりたいを引き出す。既存の教材に捕らわれることなく、本人の希望や嗜好を活かし、共に取り組みながら様々な概念の取得とコミュニケーションへ繋げる。		
営業時間	10時～17時	送迎実施の有無	あり なし
支援内容			
本人支援	健康・生活	あんずに着いたら、靴を脱いで自分の名札をつけ靴箱に入れる→連絡帳の提出→自分の荷物を棚に入れる→検温・トイレ・手洗いをする、という一連の流れを身につけることで、やるべきことをまず行なう習慣を身につけてもらうと同時に自分のことは自分でする習慣も身につけてもらう。食事や排泄についても、できることは自分でしてもらい、できないことは介助しつつもできていくように支援していく。	
	運動・感覚	粗大運動として、サーキットや体操を行なうことで体幹を強くしたりバランス感覚を養っていく。また微細運動として、折り紙やひも通し紙の切り貼りなどを行ない手先の動きをスムーズに動くように支援していく。	
	認知・行動	本人が行動しやすくするために、その日の予定をあらかじめ書いておき視覚から分かるようにしたり、タイマーを使って聴覚から周りの情報を認知できるように個々に合った方法で本人を取り巻く状況を認知でき行動を起こしやすくする。	
	言語 コミュニケーション	相手も自分も大切にコミュニケーションを学んでいく。子どもたち同士のその場にふさわしくない言葉・行動がみられたときは、その背後にある問題をよく観察しより適切な言葉遣いや行動は何であるかを一緒に考え、その場に合った言葉遣いや行動ができるように支援していく。	
	人間関係 社会性	あいさつ、ものごとのルール、感謝や謝罪の言葉など、社会生活に必要なソーシャルスキルの習得を目指す。集団活動や友だちとの関わりの中で発生する人間関係において相手も自分も大切にしたい行動を選択できるように一緒に考えていく。	
家族支援	普段から、連絡帳や送迎時の保護者との会話で、本人のあんずでの様子や家での様子また学校での様子の情報を共有しておく。連絡を密にしてお互いに相談しやすい環境をつくっておく。	移行支援	中学に上がると、あんずに来るときは学校終業後自分で来てもらうことを推奨し自立を促す。
地域支援・地域連携	各学校と本人の近況を共有する。	職員の質の向上	日頃から各児童について情報交換を行ない適切な対応を皆で考えていく。必要なときには研修を行なう。
主な行事等	月ごとに、その月に合った工作をしたり全員でひとつの絵を仕上げたりしている。例えば、2月なら新聞紙を丸めて豆の代わりにし鬼のお面を被ったスタッフに投げてみる、あるいは7月なら短冊に各自の願い事を書いてもらいそれを教室に飾るなど。避難訓練を年2回行なっている。		